



## 情報交流室図書コーナー《新刊紹介》

### ガチガチの世界をゆるめる 澤田 智洋 百万年書房



この「ガチガチ大国・日本」で「この社会全体をもっとゆるめたい」をモットーとする著者の澤田智洋氏は、「世界ゆるスポーツ協会」なる団体の代表理事。「500 歩サッカー」「イモムシラグビー」などの「ゆるスポーツ」を紹介しながら、社会の標準的価値感を問い直していきます。障害の有無に関わらず、楽しく生きていく社会のあり方や社会を変えていく主体的な生き方を教えてくれる本です。

### 誰もが〈助かる〉社会—まちづくりに織り込む防災・減災 渥美公秀 石塚裕子（編） 新曜社



災害が多発する日本で、誰もが助かるために、どのような防災活動が必要なのかを論じた本です。防災活動を専門家に任せてしまう「防災1.0」、防災をイベント化する「防災2.0」の活動の限界を指摘します。そして、既存のまちづくりに防災活動を織り込む「防災3.0」を提唱します。防災まちづくりに関わる人々が陥りやすい、課題を指摘しながら、本当に地域で機能する防災のあり方を伝えてくれる本です。

### 表紙の絵について

作者：山本ゆうさん

描かれたリスは冬を乗り越えるために " 食べる " ことに一生懸命です。淡い色味で消えそうに描かれているのに、流れ消えない強さにもじみ出てます。



発行者 齋藤 十四男  
発行日 2022 年 10 月 1 日



大田区区民活動支援施設大森 こらぼ大森  
住 所 〒143-0015 大田区大森西 2-16-2  
電 話 03-5753-6616  
U R L <http://collabo-ohmori.com/>



ホームページ QR コード▶

2022 秋



おいでよ /

collabo  
こらぼ

季刊誌 vol.44

在宅避難に役立つワザを紹介  
まちを元気にする高架下の拠点 KOCA とは



まちを元気にする高架下の拠点 KOCA.... 2-3P  
在宅避難に役立つワザ 家具転倒防止の動画を制作中 ..... 4P  
コラム：震災関連死ゼロの避難所から学ぶ ..... 5P  
「見やみ」カメラと デジタル技術を活用しよう！ ..... 6P  
平和祈念写真展《未来に伝える昭和》を開催しました ..... 7P  
情報交流図書コーナー《新刊紹介》 ..... 8P

発行 大田区区民活動支援施設大森 こらぼ大森



## モノづくりはまちづくり。 まちを元気にする高架下の拠点「KOCA」

京急線の大森町駅～梅屋敷駅間を結ぶ高架下に、ものづくり複合施設「梅森プラットフォーム」があるのをご存じでしょうか。春号では、この施設で移動式浄水装置を開発する企業「トップウォーターシステムズ」を紹介しました。この場所には、事業活動を通じて地域活性化に取り組む若い経営者が集まっており、未来の市民活動のあり方を考えるヒントがありそうです。そこで本号では、「梅森プラットフォーム」で「KOCA」を運営する@カマタの茨田氏に話を伺いました。

### 地域の「クリエイター」と「町工場」の拠点

ものづくり複合施設「梅森プラットフォーム」は、2019年4月、地域の「クリエイター」と「町工場」の拠点づくりを目的として誕生しました。その入居テナント「KOCA」は、コワーキング機能を有したインキュベーション施設としてオープンしました。

@カマタの茨田さんは、大田区で家業として不動産賃貸業を営んできましたが、その中で、物件単体のみならず、地域全体の価値を底上げする必要性を感じてきました。そのために、地域の産業を活性化し、活気を生み出す場所をつくりたい。そう思っていたところ、高架下を有効活用する意向を持っていた京浜急行電鉄の方々と出会い、意気投合したことが、この施設づくりに繋がったのだそうです。



「KOCA」を運営する@カマタの茨田禎之氏



「KOCA」の施設

### 地域の人との接点も大切

「KOCA」のコンセプトは、町工場の文化とアート・デザインの文化の融合。そのために人が集まる空間をつくり、コラボレーションが生まれやすい環境づくりを行いました。町工場の2代目や建築家、アーティストが集い、商品開発や様々な活動が行われています。

地域の人々との接点も大切にされています。梅屋敷にあった伝統の甘味処「福田屋」のクリームモナカを、「KOCA」に隣接するカフェ「仙六屋」で復刻したのも、みんなの思い出がつまった味を大切にしたいからだそうです。

「KOCA」には、周辺地域の人たちが利用できる、コワーキングスペースや、イベント・ワークショップが企画されることもあります。将来、モノづくりで起業したいという夢がある人は、ぜひこの場所に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



人が集まる空間（「KOCA」の内観）



「福田屋」のモナカを復刻した「仙六屋」



KOCA 入居者が中心となって、周辺町工場の方たちが自主的におこなっている”部活動”があります。その活動のなかで、「FACTOREALIZE」というブランド名で商品化を目指しています。（写真提供：@カマタ茨田禎之氏）



在宅避難に役立つワザやってみたシリーズ

# 家具転倒防止の動画を制作中！



大森コラボレーションでは、防災の知恵を伝える「在宅避難に役立つワザやってみた！」シリーズの動画を制作しています。今回も、防災まちづくり研究会の皆さんの協力で、家具転倒防止のノウハウを伝える動画撮影を行いました。

(出来上がった動画は近日中に youtube で公開します。)



動画撮影の様子

## マジックテープを使った方法

ご紹介する家具転倒防止の方法は、マジックテープと両面テープ（建築用）を使うもの。家具の背面と壁にマジックテープを貼って、止めれば完成です。（主に 50kg までの中小家具に適した方法です。）この方法は、転倒防止の効果が高い上に、突っ張り棒やチェーンに比べて、すっきりと納まります。



マジックテープを使った家具転倒防止の方法

## 自宅で災害に備えるレシピ動画できました！

夏号で紹介した、防災レシピ「節水＆ガス節約でパスタ」「お鍋で炊飯」の動画が完成し、youtube にアップロードされたので紹介します。

### 節水＆ガス節約でパスタ



### お鍋で炊飯（3～5号の例）



## コラム

# 震災関連死ゼロの避難所から学ぶ

## ～東日大震災の記録～

情報交流室スタッフ：木村直紀

取材協力：高寿園職員 菅原由紀枝氏

このコラムでは、東日本大震災で避難所となった、岩手県陸前高田市の特別養護老人ホーム高寿園の例を紹介します。1000 人を超える避難者を受け入れ、ひとりも関連死を出さなかった高寿園の経験には、今後の防災対策への多くのアイデアやヒントが込められています。

### 想定外の 1000 人を超える避難者

3 月 11 日、陸前高田市内は津波によって壊滅的な被害を受けました。高台にある入居者約 100 人の高寿園は、市の指定避難所ではありませんでしたが、次々と人々が避難してきました。翌 12 日には、避難者数は合計で 1,170 人となり、市内で 2 番目に大きな避難所となります。園内には、食堂やホール、廊下など、あらゆるスペースに避難者があふれている状況でしたが、食料は入居者の食事 4 日分と 150 人、3 日分の備蓄しかなかったそうです。

### 避難者が自らボランティア

園の職員や避難者の皆さんは、地元の業者や農家からの差し入れなども利用しながら、何とか一日二食制で食事を提供していきました。地元の高校生や避難者自らにボランティアとなっ



避難所となった特別養護老人ホーム高寿園

てもらい、1,000 人を超える避難者や利用者に食事が提供されていきました。避難者は 30 人の班に分けられ、リーダーが厨房前に食事を取りに来るルールなども決められていきました。

### みんなが協力して5か月間を乗り切る

電気が復旧し、給水車が来るまでに 2 週間を要しましたが、高寿園は、職員と避難者の見事な連携で予想外の状況乗り越えながら、8 月中旬まで避難所として利用されました。避難者の方々が、仮設住宅などへ移動する際も、別れを惜しむ様子が多くみられたといいます。

高寿園の経験は、実際の災害では予想外の出来事が起こること、それに対処する地域の力が求められることを改めて教えてくれます。

### 長期避難に役立った工夫

- ・調理場はオール電化システムであったが、災害に備えてプロパンガスを併用していた。
- ・水道がストップしたため、貯水タンクの水を計算しながら少しずつ使用した。
- ・日常の地元とのつながりにより、米、野菜、果物など、食料の提供が提供された。
- ・マンパワー確保のため、避難者らの手で食事を提供するなどした。
- ・避難者を 30 人の班に編成し、リーダーが食事を取りに来るなどのルールを決めた。



バイキング形式で自ら食事の準備をする避難者の皆さん



## デジタル技術を活用しよう！

### 初級セミナーを開催

7月27日（水曜日）に、NPO 法人大森コラボレーションによる「デジタル初級セミナー」がこらぼ大森2F 多目的室で開催されました。

本講座は、市民活動の中で、デジタルツールを活用する場面が増えてきた事を受けて、NPO 法人大森コラボレーションが、令和4年度チャレンジプラス助成の一環として実施したものです。参加者の皆さんは、LINE、Google ドライブ、Zoom などについて熱心に使い方を習っていました。



セミナー参加者の皆さんがデジタルツールを学ぶ様子

### 参加者募集中！

### レベルアップ講座

NPO 法人大森コラボレーションでは、引き続きデジタルツールの活用や発信力を強化するための講座を開催します。ご希望の方は、下記 QR コードよりお申込みください。

#### お申込み方法

右のQRコード(または以下URL)よりお申込み下さい。

<https://tinyurl.com/2l5vu4a9>



E-mail、FAXでのお申込みの場合は、以下の必要事項をご記入の上お申し込み下さい。

#### ■必要事項■

①所属団体名 ②氏名 ③E-mail ④電話番号  
⑤今回お申込み頂くきっかけ（例：チラシを簡単に作りたい、Googleフォームを使えるようになりたい等）

講座① チラシ 9/28 (水)  
19:00~20:30

<概要>  
簡単に作れる！チラシの作り方アレコレより効果的なチラシはどう作る？

- ・Wordやパワポで手軽に作る
- ・無料テンプレートを上手に活用
- ・掲載すべき基本情報は？



定員  
8名

講座② アプリ 10/12 (水)  
19:00~20:30

<概要>  
団体の活動にも応用可能！  
無料でも使えるアプリの活用例

- ・LINE公式アカウント
- ・Google フォーム
- ・Excel Word PowerPoint



定員  
8名

## 平和祈念写真展 開催しました 7月29日（金）ー31日（日） 《未来に伝える昭和》



大森第二小学校（現開桜小学校）の疎開先、  
富山県氷見市のお寺（故臼井善吉氏提供）



大森地区の焼け跡（開桜小学校提供）

戦災により焼け野が原となった日本とこの大森の地がどのように復興と発展を遂げてきたか、その歩みを写真と貴重な資料で振り返る「写真展」を開催しました。今回で8回目となります。参観される方の中に、白い布でくるんだ若い兵隊の写真をお持ちの方がお見えになりました。お兄さんの写真だそうで、気を付けの姿勢で映った写真は、まだ少年の

面影が残っています。最後はシベリアの地で亡くなられたとのことでした。

時が過ぎ、時代が変遷しても悲惨な戦争があった「昭和」の時代を忘れてはならないとの思いが一層募りました。今後も平和な社会を築いていくためには何を受け継いでいくかを考える機会として、「写真展」を開催していきたいと思います。

協力：郷土博物館、開桜小学校、昭和館



写真展のようす



写真を見入る来訪者の方々